

しおさいかわら版

発行所
小名浜まちづくり
市民会議
TEL: 52-1275
FAX: 52-1415
発行日
平成28年1月20日

新年のごあいさつ



会長 佐藤 毅

群の出港などもありました。海上へ目を移しますと、東港への道となるつり橋が間もなくつながるうとしています。

しかしながら、5月のゴールデンウィークや8月のお盆、9月のシルバークウィーク等の観光シーズンに、アクアマリンパークを訪れた観光客数は、前年を上回ることができませんでした。震災前には年間250万人を数えたアクアマリンパークへの観光客数は、現在、約半分（正式な集計はまだですが）になってしまいました。

一方、昨年の3月に着工予定でした（仮称）イオンモール小名浜は、着工延期となり、竣工日時も定かではない状態が続く、今年春を予定した「小名浜まち開き」は、宙に浮いている状態です。

このままでは、順調に歩んできた復興への道筋が途絶えてしまうのではないかと。小名浜の再生への道筋が危うくなってしまっているのか。」と強い危機感を抱いています。

復興への道筋のアンバランスを修正、是正しなくてはなりません。そのためには、震災前に250万人を数えたアクアマリンパークへの来場者数を超える観光交流人口の復活を目指すべきだと考えます。「福島県、いわき市の復興は小名浜から」のテーマを名実ともに成し遂げる事が重要だと思います。

いわき市は今年、市政50周年を迎えます。そして小名浜港は開港60周年となります。この記念すべき年に、復興、再生の大きな道標として、アクアマリンパーク観光交流人口300万人への道筋を見つけていくことを提案します。一筋縄ではない、難しく困難な課題だと思えます。しかし、この壁を乗り越えなければ、いわき市のこれからの60年、小名浜港100年への明るい道筋はないものと考えます。元気で明るい小名浜の実現こそが、真の復興だと考えるからです。

その第一歩として、いわき市政50周年記念事業プレゼンにて優秀賞を受賞しました「小名浜 胃・飾・縦プロジェクト」を、まずは今年一年を通して実施して参ります。是非ご期待ください。また、小名浜地区の中心市街地活性化法の認定に向けての動きも加速させていきます。これらの事を中心に活動するとともに、併せて小名浜の更なる魅力、ホッとする場所、HOTな場所、ホッとするモノ、HOTなモノ」を見つけて参りますので、地域の皆様からたくさんのご意見をいただければ幸いです。また、市民会議の新会員も随時募集しております。いつでも入会可能ですのでお声がけをお待ちしております。



▶ 小名浜まちづくりのグランドデザイン
詳しくはマチステにてご覧下さい

12月全体会議

～創立15周年記念講演会～

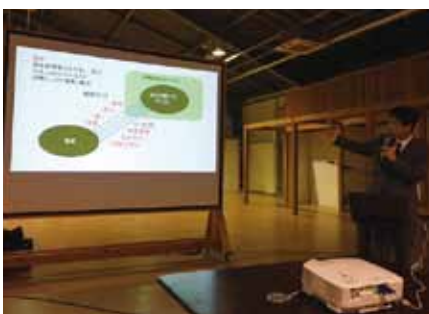
伊勢おかげ横丁のまちづくりに学ぶ

小名浜まちづくり市民会議創立15周年を記念した講演会が12月8日、小名浜潮目交流館で開かれました。伊勢のおかげ横丁を開発し、現在はおかげ横丁を運営する伊勢福の橋川史宏社長が「地域づくりの進め方」「伊勢おかげ横丁のまちづくり」と題し講演しました。

かつて、観光客数が20万人にまで落ちた伊勢。おかげ横丁は、観光客数を20年間で500万人にまで成長させることを目標に掲げて出発。将来像にビジョンを持つこと、訪れる人に感動を与えられる、その内容が継続できることなどの明確な理念の

小名浜まちづくり市民会議創立15周年を記念した講演会が12月8日、小名浜潮目交流館で開かれました。伊勢のおかげ横丁を開発し、現在はおかげ横丁を運営する伊勢福の橋川史宏社長が「地域づくりの進め方」「伊勢おかげ横丁のまちづくり」と題し講演しました。

講演会後には、毎年恒例の大忘年会も開催。橋川社長を交え、未来の小名浜やまちづくりについて大いに意見を交わしました。



▶ 講演頂いた橋川史宏社長



▶ 節目の全体会議には多くの会員に参集頂いた

もとまちづくり事業を展開して来た事、理念の価値を古いもの引き継ぐことの大切さを認識すること、心の状態を維持することなど、神恩感謝の気持ちを忘れずに進めてきたとの経験談をお話いただきました。橋川社長は小名浜のまちづくりにについても「取り組みの継続や理念を明確にすることが大事」などとアドバイス。訪れた市民や会員らは、今後の活動につなげようとメモを取るなどして耳を傾けていました。

